

人と人をつなく、  
あなたのベストパートナーでありたい。



## 株主通信

2011年4月1日～2012年3月31日

**IK** 稲畑産業株式会社

# 人と人をつなぐ、あなたのベストパートナーでありたい。

稲畑産業グループは、

創業以来の社是ともいえる「愛」「敬」という人間尊重の精神に基づき、

社会の発展に貢献することを経営理念として掲げ、

「時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、

グローバルに事業を展開することにより、

価値ある存在として常に進化を続ける」ことを「目指す姿=Vision」と考えています。

## 【経営理念】

Mission

「愛」「敬」の精神に基づき、  
人を尊重し、社会の発展に貢献する

## 【目指す姿】

Vision

時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、  
グローバルに事業を展開することにより、  
価値ある存在として常に進化を続ける

## 【価値観】

IK Values

- ・謙虚さと誠実さを基本とする
- ・高い理想、大きな夢、熱い心を持って常に限界に挑戦する
- ・自由闊達な議論とチームワークを重んじ、社員の成長を大切にする
- ・顧客の問題を顧客の立場から解決し、顧客のベストパートナーとなる
- ・世界の人々と価値を共有し、そこに暮らす人々と共に発展する

(倫理観)

(志)

(組織風土)

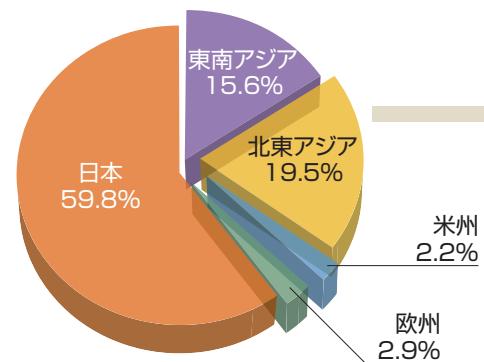
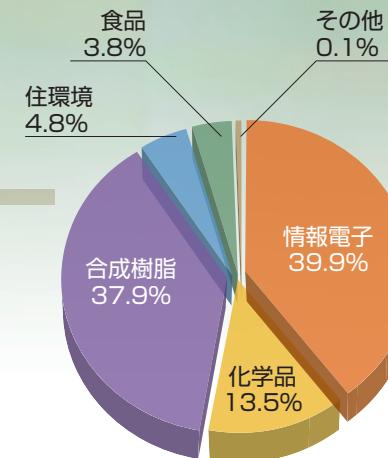
(機能)

(共生)

# 稲畑産業は、こんな会社です。

## 当社ならではの機能で市場のニーズにお応えします。

1890年、京都の地で合成染料の輸入販売からスタートした当社は、ケミカル事業を中心に事業領域を拡大してまいりました。現在では、情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境などの分野において、市場開発や製造加工、物流、ファイナンスといった様々な機能で幅広い市場のニーズにお応えしています。



## 海外事業の比率が約40%。私たちの活動の舞台は、世界です。

当社グループは海外で15カ国60拠点余にわたり事業を展開しており、連結売上高に占める海外事業の比率は、既に4割を超えています。

日本を含むこれらの拠点間の緊密な情報ネットワークをさらに拡大し、お客様により高度なソリューション、サービスをご提供してまいります。





## 海外ビジネスに注力し、 中期経営計画「IK2013」の達成に邁進

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当社の2011年4月1日から2012年3月31日における  
事業の概況をご報告させていただきます。

代表取締役社長 **楠 畑 勝 彦 郎**

### 当期の概況について

当期につきましては、大幅な円高をはじめ、原油高の長期化、タイの洪水によるサプライチェーンの混乱、さらには欧州の財政問題、中国経済の成長鈍化や新興国のインフレ懸念など、世界の経済環境はより厳しさを増しており、景気の不透明感が強まりました。

こうした中、当社の事業においては、連結ベースでの売上高は、4,644億2千9百万円(対前期比1.0%減)となりました。利益面では、営業利益は76億3千2百万円(同3.4%減)、経常利益は88億3千4百万円(同4.2%増)となりました。当期純利益は62億9千7百万円(同12.9%減)でした。

### 中期経営計画「IK2013」初年度を 経過して

当社は、2014年3月期を最終年度とする3カ年の中期経営計画「IK2013」を昨年5月に策定いたしました。最終年度

に売上5,500億円、営業利益100億円の達成を目指しています。

初年度の進捗状況といたしましては、円高による円ベースの金額の目減りや、液晶関連の落ち込み等の影響を受け、左記に記しましたとおり売上高、営業利益につきましてはやや苦戦しています。一方で、経常利益、当期純利益につきましては、持分法投資損益の改善等により、初年度の目標値をクリアしました。

ROE、自己資本比率は、初年度の目標値をクリアしましたが、ネットD/Eレシオは、短期借入金の増加により目標に届きませんでした。資金の効率化をより一層進めて改善を図る方針です。

### 計画の達成に向けて

#### アジアや新興国を中心に、海外ビジネスに注力

海外ビジネスの伸長が順調に進んでいます。特に東南アジア

は、昨年のタイの洪水被害の影響が大きかったにも関わらず、その後の回復が順調です。また欧州および米州各リージョンの黒字化も利益面の底上げに貢献しています。

このような中、東南アジアでは、当社の特徴の一つである樹脂コンパウンド事業につきましては、インドネシア・ベトナム等で増設を計画しています。現在の19万3千トンの生産能力を20万トン超に引き上げ、アジアでの自動車・生活家電需要拡大に併せて樹脂コンパウンドの拡販を進めていこうと考えています。また新興国市場では、インドや中南米において主要事業分野の取り組みを強化しています。

#### 環境・エネルギー、ライフサイエンス事業の育成・強化

リチウムイオン電池・太陽電池等の電池関連ビジネスを、新たな柱のひとつとすべく育成中です。また医薬をはじめとする

ライフサイエンス分野も成長が続くと見込んでいます。中国、インドにおいて医薬・医療関連ビジネスを強化していきます。

### 株主の皆様へ

当社の強みは、何よりも現場に根ざした情報力です。関連会社も含めた様々な商社機能を駆使し、顧客ニーズとあらゆる素材(シーズ)を結びつけることでマーケット開発が可能だと考えています。

2013年3月期は、中期経営計画「IK2013」の2年目となり、計画達成に向けた重要な一年となります。最終年度の計画達成に向けて、全社員一丸となって邁進する所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

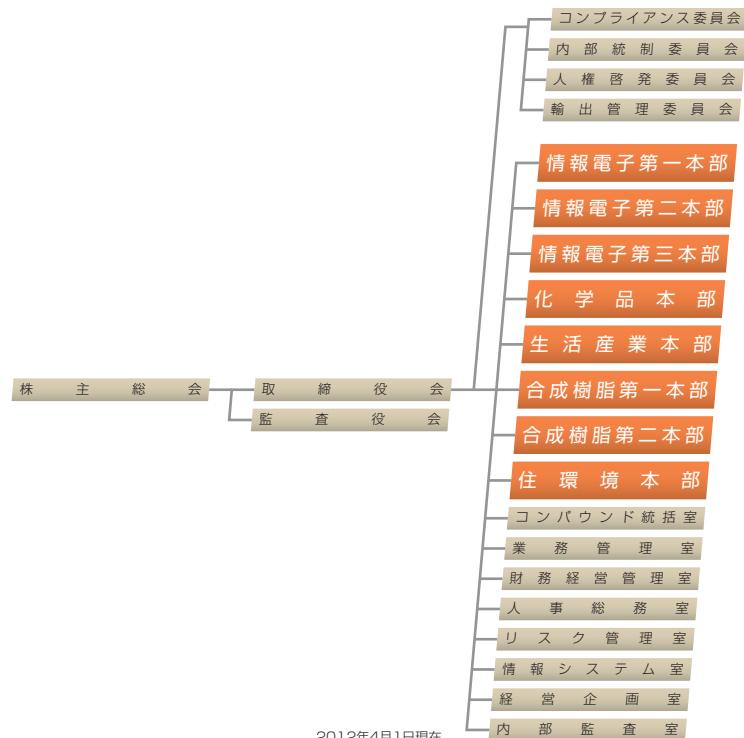


TOPICS 1 営業部門再編のご案内

当社は、情報電子部門、化学品部門、食品部門におきまして、営業本部を再編いたしました。それぞれの市場に向けて機動性を高めシナジーを生み出すことで、新たなビジネスの創出を目指します。

情報電子部門は、従来の情報画像本部と電子機能材本部を統合し、分野ごとに3本部に再編いたしました。

化学品と食品の両部門につきましては、工業化学品、ライフサイエンスをそれぞれ専門に取り扱う2本部に再編いたしました。



2012年4月1日現在



情報電子第一本部

液晶を中心としたフラットパネルディスプレイ (FPD) や LED 関連業界への部材を取り扱います。

情報電子第二本部

複写機・プリンター業界の顧客にインクジェットやトナー原料、カートリッジなどの各種部材を販売します。

情報電子第三本部

太陽電池、二次電池に代表されるクリーンエネルギーと半導体の分野を取り扱います。



化学品本部

樹脂・ゴム、繊維業界や、自動車部品、電子材料の業界に高機能化学品を提供するスペシャルティケミカル部門、および、塗料・インキ、製紙、接着剤の各業界向けを中心とする、パフォーマンスケミカル部門で構成され、汎用から特殊ケミカルまでにわたって工業化学品に特化いたします。

生活産業本部

これまで別々の本部で展開していた食品とライフサイエンスの事業部門を新たにひとつの本部に統合しました。

製薬分野、家庭用品分野、水産・農産物を扱う食品分野の3部門で構成されます。

TOPICS 2 稲畑インディアがチェンナイ事務所を開設

当社は、2008年にインドにて現地法人稲畑インディアを設立し、合成樹脂、化学品、情報電子を3本柱に事業を展開しております。2012年1月、合成樹脂などの事業を拡大するため、南部タミルナド州チェンナイに新たに事務所を開設いたしました。

チェンナイでは自動車産業の集積が進んでおり、稲畑インディアは合成樹脂に精通した人員を増員し市場に対応します。同じく自動車関連産業が盛んな西部マハラシュトラ州プネにも近く事務所を開設予定で、本社機能を持つ北部ハリヤナ州グルガオンとあわせて3拠点体制となります。

当社は、インドを重点市場のひとつとして位置づけており、樹脂コンパウンド生産の検討も含め、今後も積極的に取り組んでいきます。



TOPICS 3 2012年3月期 第2四半期 決算説明会 開催



当社は、2011年11月29日に、機関投資家様やアナリスト様を対象に、2012年3月期第2四半期決算説明会を開催いたしました。

説明会では、「当社の事業領域」、「過去の業績推移」など会社概要の紹介に続いて、2012年3月期第2四半期の決算について説明を行いました。また、2011年5月に公表した3か年の中期経営計画「IK2013」について、最終年度の営業利益100億円達成に向けた重点施策を説明しました。

今後、第2四半期と期末の年2回、同様の決算説明会を開催し、機関投資家様やアナリスト様と当社経営者との対話の場を定期的に設けて、IR活動を積極的に行っていく予定です。

TOPICS 4 CPhI Japan 2012 (国際医薬品原料・中間体展) に出展



化学品本部は、3月21日(水)から23日(金)までの3日間、東京ビッグサイトで開催された「国際医薬品原料・中間体展2012」(主催:UBMジャパン株式会社、化学工業日報社)に出展しました。

同展示会は、医薬開発品原料、ジェネリック医薬品原料・中間体、最先端の医薬合成技術・設備など、医薬品原料・中間体にフォーカスした日本最大の国際トレードショーです。

当社は、稲畑産業グループで、精密化学品の製造をしているPharmasynthese(仏)をはじめ、技術力の高い米国、中国、インドの有力企業の特徴などを紹介しました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期 2011年3月31日現在	当期 2012年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	177,791	189,470
固定資産	60,481	61,574
有形固定資産	9,946	9,681
無形固定資産	6,559	5,629
投資その他の資産	43,975	46,264
資産合計	238,272	251,045
<b>負債の部</b>		
流動負債	141,195	152,129
固定負債	25,036	21,184
負債合計	166,231	173,314
<b>純資産の部</b>		
株主資本	63,353	67,485
その他の包括利益累計額ほか	8,687	10,245
純資産合計	72,040	77,730
負債純資産合計	238,272	251,045

Point1: 流動資産の増加

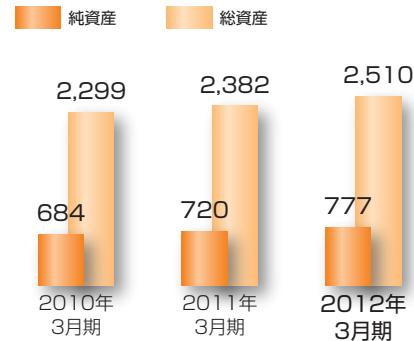
売上債権、棚卸資産が増加した等のため、11,678百万円増加しました。

Point2: 流動負債の増加

短期借入金が増加した等のため、10,934百万円増加しました。

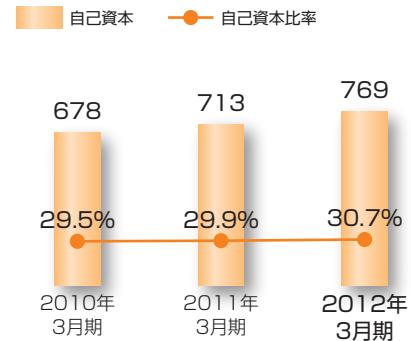
純資産と総資産

(単位:億円)

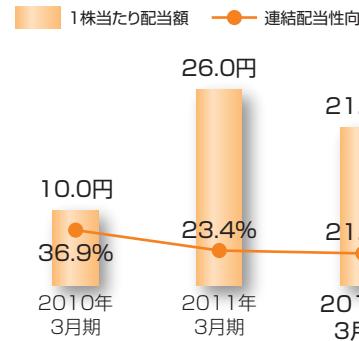


自己資本と自己資本比率

(単位:億円)



1株当たり配当額と連結配当性向



(注: 2011年3月期の期末配当金には、創業120周年記念配当2円を含んでおります。)

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期 2010年4月1日~ 2011年3月31日	当期 2011年4月1日~ 2012年3月31日
売上高	469,090	464,429
売上原価	437,341	432,669
売上総利益	31,749	31,759
販売費及び一般管理費	23,848	24,127
営業利益	7,900	7,632
営業外収益	2,458	2,648
営業外費用	1,877	1,446
経常利益	8,481	8,834
特別利益	3,965	549
特別損失	1,842	912
当期純利益	7,232	6,297

Point3: 売上高の減少

円高による減少(△132億円)が大きく影響しました。円高を除けば東日本大震災、タイの洪水はありましたが微増でした。

Point4: 経常利益の増加

持分法投資損益が改善した等のため、353百万円増加しました。

Point5: 特別利益の減少

前期は子会社の売却益(31億円)がありました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

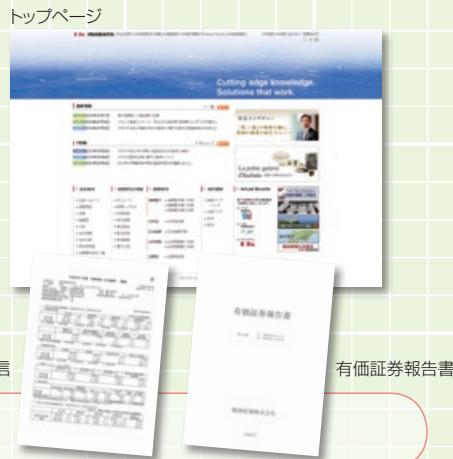
科目	前期 2010年4月1日~ 2011年3月31日	当期 2011年4月1日~ 2012年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,495	△15,534
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,436	△1,629
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,980	12,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	△275	△318
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,763	△5,081
現金及び現金同等物の期首残高	5,014	15,777
現金及び現金同等物の期末残高	15,777	10,756

Point6: 営業活動によるキャッシュ・フローの減少

売上債権、棚卸資産の増加及び法人税等の支払額が増加した等のため、△15,534百万円となりました。

当社ウェブサイトの「投資家向け情報」のページでは、IR関係リリース情報や最新の財務データをタイムリーに配信しております。また、財務データは複数の指標を、四半期ごとのグラフでわかりやすく掲載しております。今後ともよりよいIR情報のページづくりを目指してまいります。ぜひ当社ウェブサイトの「投資家向け情報」をご覧ください。

<http://www.inabata.co.jp>



決算短信

有価証券報告書

vol.1 投資家向け情報ページ編 ～財務ハイライトグラフ～

投資家向け情報ページでは、業績データから財務データまで、様々な指標グラフを掲載しております。当期を含め、5期分の推移比較がご覧いただけます。



過去4期分の期末実績と当期の四半期ごとの累積実績をご覧いただけます。



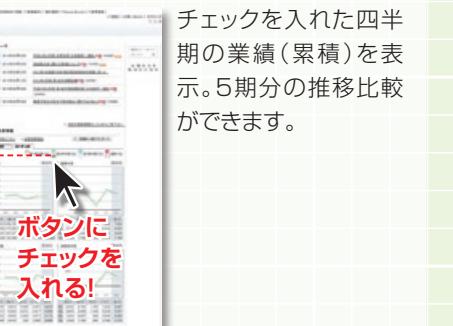
財務ハイライトのページでは、以下(すべて連結)の推移グラフをご確認いただけます。

業績ハイライト(連結)	
売上高	営業利益
経常利益	当期純利益
1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率
総資産経常利益率	売上高営業利益率
財務状況(連結)	
総資産	純資産
自己資本比率	1株当たり純資産額
期末発行済株式総数(自己株式を含む)	期末自己株式数
キャッシュ・フローの状況(連結)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー
財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物の期末残高



チェックを入れた四半期の業績(累積)を表示。5期分の推移比較ができます。

四半期の業績(累積)グラフに切り替わります。



会社情報 / 株式情報

Corporate Information / Stock Information

会社概要

(2012年3月31日現在)

- 会社名 稲畑産業株式会社
- 創業年月日 1890年10月1日
- 設立年月日 1918年6月10日
- 資本金 93億6千4百万円
- 従業員数 569名(グループ会社への出向者を含む)  
[連結:3,721名]

- 大阪本社 大阪市中央区南船場一丁目15番14号
- 東京本社 東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
- 名古屋支店 名古屋市中村区名駅三丁目22番8号
- 営業所 松本営業所、三重営業所、九州営業所(霧島市)

役員

(2012年6月26日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	稲畑 勝太郎	常勤監査役	佐藤 精一
代表取締役 専務執行役員	中野 佳信	監査役	越智 豊
代表取締役 専務執行役員	大槻 延広	監査役	鈴木 修一
取締役 常務執行役員	西村 修	監査役	松山 康二
取締役 常務執行役員	金子 證	執行役員	尾崎 一郎
取締役 役員	菅 沼利之	執行役員	上杉 隆
取締役 役員	横田 健一	執行役員	望月 卓
取締役 役員	赤尾 豊弘	執行役員	杉山 勝浩
取締役	亀井 康夫	執行役員	佐藤 友彦
取締役相談役	稲畑 勝雄	執行役員	藤園 弘

(注) 1. 取締役 亀井康夫は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2. 監査役 鈴木修一及び松山康二は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株式情報

(2012年3月31日現在)

[発行可能株式総数] 普通株式 200,000,000株  
[発行済株式の総数] 普通株式 65,159,227株  
[株主数] 5,801名  
[大株主の状況](上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
住友化学株式会社	13,836	21.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,097	4.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,779	4.3
JP MORGAN CHASE BANK 385093	2,134	3.3
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,736	2.7
稲畑 勝雄	1,156	1.8
株式会社みずほ銀行	1,114	1.7
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,084	1.7
丸石化学製品株式会社	961	1.5
あすか製薬株式会社	785	1.2

(注) 当社保有の自己株式数(869,226株)につきましては、上記の表及び持株比率の計算より除いております。

# 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 公告の方法 電子公告 当社のホームページに掲載します。  
<http://www.inabata.co.jp/koukoku>  
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 上場証券取引所 東京・大阪証券取引所 市場第一部
- 証券コード 8098
- 単元株式数 100株
- 会計監査人 大阪市中央区瓦町三丁目6番5号  
銀泉備後町ビル 有限責任 あずさ監査法人
- 株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎0120-176-417  
(ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

## [株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について]

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

## [特別口座について]

株券電子化前にほぶり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。